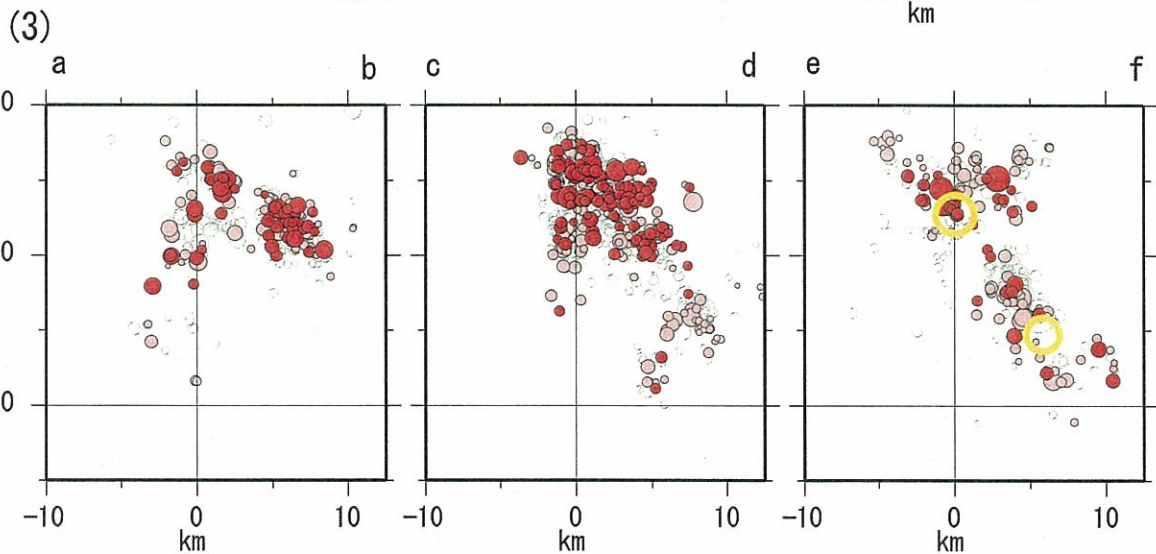
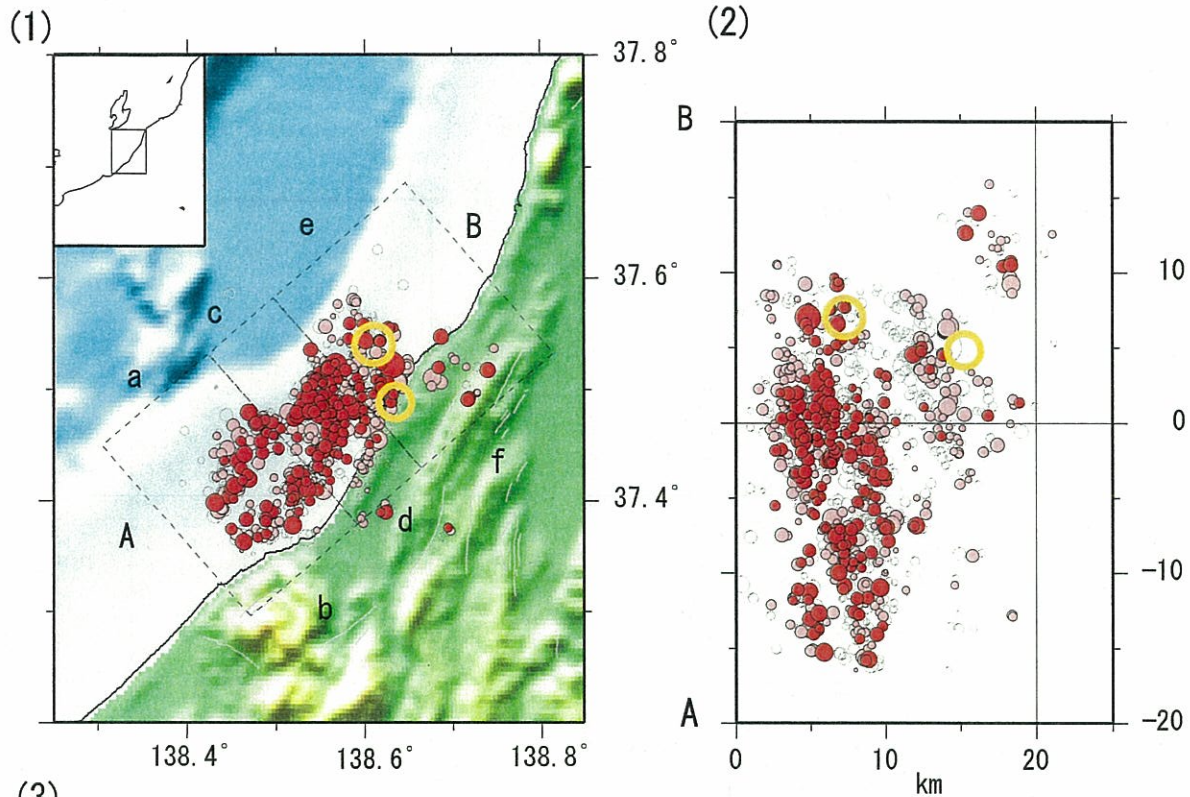
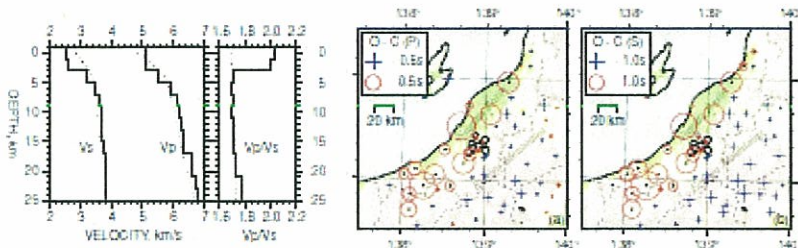


2007年新潟県中越沖地震 - DD法による震源決定結果(速度構造1) -



(4)



● 2007/07/16 10:13-2007/07/16 15:36 ○ 2007/07/16 15:37-2007/07/18 23:59

図(1)赤色および桃色丸はDD法により再決定された震源位置を、灰色丸は初期震源位置を示す。(2)A-B鉛直断面図、(3)a-b, c-d, e-f鉛直断面図

(4)Shibutani et al. (2005) (EPS)によって求められ、一次元速度構造ならびに観測点補正值。(Fig.2, Fig.3を抜粋)

Shibutani et al. (2005)による一次元速度構造ならびに観測点補正值(図(4))を用いて、hi-netルーチンの震源をhypmh法(Hirata and Matsu'ura, 1987)により再決定した(図(1)-(3)灰色丸)。その震源を初期震源として、hypoDD法によりカタログデータならびに波形相関データを用い再度震源を決定した。余震分布は全体的に約10km浅くなり、全体的に南東方向に傾斜する。本震震源近傍には(図(3)e-f断面)、北西方向に傾斜する余震の分布も見られる。

謝辞:一次元速度構造ならびに観測点補正值は、京都大学防災研究所の渋谷拓郎博士より提供していただきました。